

# 洗礼の証し

## － 最大の宝・イエス様の焼き印を受けて －

横溝 章 ( Akira Yokomizo )

私が、初めてキリスト教の教会に足を踏み入れたと言うより招かれたのは、2002年の夏08月25日(日曜日)の事でした。当時は、修士号を目指すべく大学院に在籍していましたが、研究テーマの設定などで失敗や挫折を覚えていた時でした。高校から大学学部時代まで、重度の貧血になるほどの出血を伴う十二指腸潰瘍にも悩まされていましたが、それ以前に最もショッキング(衝撃的)だったのは、私が学部を卒業出来る事が決まった1999年03月頃にある新聞に、メダカやイルカなどの水生生物の絶滅危惧のニュースからでした。当時は、土木工学の一分野である、「水理学(流体力学)」の研究をしていましたから、水環境に関する問題で、本当に今までの土木工学(civil engineering)又は、infrastructure(インフラ)のあり方で良いのか??自問自答して迷いに迷いました。

その頃から、頭痛が慢性化してきて、病院の神経内科にかかったところ、自分の近況や学生としての有り様を聞かれ、泣きじゃくってある意味取り乱してから、当時の心療内科に回され、「**うつ病**」と診断されました。悲劇はこれから始まったと私は考えています。

当時の医師と別の教授からの勧めで、大学院を1年間休学もしましたが、少し家族にも焦らされた面もありましたが、研究室を都市計画系に変更する事によって、復学することが出来た年でした。丁度、あるFMラジオを聞いていたのが良くなかったのかも知れませんが、岡山県を舞台に3年間連続で、夏の間を中心に、インターネット上で、ストーリー性のある謎やヒントが出され、実際に現地に行って、引き換え物を探して、県内の産物や第一発見者に大金が得られると言う「お宝探し」の観光イベントがありました。

学生の身分でありながら研究や学問を忘れて、ある意味サボってと言うか遊んでいたのが私の最大の罪だったかも知れませんが、指導教授とも上手くいっていなかったこともあり、「うつ病」の気分転換くらいで、岡山県内を他の事が見えないくらいに「お宝探し」にのめり込んでいました。その2回目の「お宝探し」の「**吉備の国伝承**」という2002年に行われたイベントの中で、偶然にも岡山市内の教会に通っていた、アメリカ留学やアルゼンチン宣教の活動をされていたある女性に、今まで、キリスト教の事は全く知らない、むしろ仏教とか神社神道に寄りすがっていた私ですが、最初に述べた日にちに教会の礼拝に招かれました。教会と言え、ヨーロッパなどの大聖堂みたいな建築を思い浮かべていましたが、その教会は、ごく家庭的で、見た目、普通の民家と区別がつかないくらいで、招き教えられた場所にかろうじてキリスト教会である看板があるくらいでした。

歴史とか人物については詳しくない私としては、イエス・キリストがなぜ日本にまで関

係するのかなど知る余地もありませんでしたが、初めて聞いた説教がまるで私の今の状況などを説明しているような内容だったので、牧師の話ぶりも柔らかい感じで、意外すんなりと説教を聞くことが出来たのを覚えています。また、少人数で、パソコンソフトでの伴奏でしたが、讚美歌の美しさに魅かれたのと、何よりも、教会の十字架の左側に掲げられていた書道の「**我は復活なり**」という言葉に感銘を受けて、数年間、岡山市内までと若干距離的に遠かったですが、礼拝に出席したり、夜中のニコデモと言う、スウェーデン人宣教師による英会話と新約聖書の英語と日本語と両方での学びの会にも参加していました。当時は、未だ、人間が罪の性質を持っているとか、キリストが贖いの救い主とか言う意味合いはよく分かりませんでした。ただ、一番最初の学びの時が、キリストが十字架に架けられ血を流し刑を受けたと言う箇所でした。そして、3日後に蘇られると言うなんとも謎めいたところですが、不思議に恐怖感は感じませんでした。

今思えば、普通に大学を学部で卒業して、普通に一般的に就職していたならば、今でもキリスト教や聖書の存在は、知らないままだったかも知れませんが、多少、研究を忘れ遊んでいたと言う、一つの大学院生としての罪な時だったのも重なり、本当のお宝が「**イエス様**」との出会いと言う最高のプレゼントでした。

しかしながら、数年間、招かれた教会に通ってはいましたが、招き入れてもらった女性との関係や家族の反対もあって、4年間くらい教会からは離れてしまいました。

丁度、その教会に招かれた頃に、教授からは理解してもらえませんでした。むしろ強制的に大学院を単位取得成績取得はしたものの、修士号と言う学位を取得することなく退学すると言う不本意な形になってしまいました。

その事もあって、「**我は復活なり**」の**復活**という言葉に深い思い入れを感じて、幾つかの仕事はしてみましたが、やはり、自分の持っている研究テーマからは離れられず、仕事は長続きしませんでした。

その間に、おそらく薬の副作用もあると思いますが、「うつ病」は悪化して、引きこもりがちになり行動力も落ちてきて、身体的に糖尿病で血糖測定やインスリン注射をして毎日出血するまでになったのが、2005年頃からでした。

今でも糖尿病の治療は続いています。その頃から、再び助けの必要を探すようになり、初めて、玉島福音ルーテル教会に来たのが、2006年11月15日(日曜日)の事でした。丁度、その時は、千金先生が深い事情で不在の時でしたが、以前の岡山の教会の牧師先生からも、自動車に乗って遠い教会に通うよりは、日曜日は安息日でもあるので、距離的にも近くの教会の方が良いですよと言われていたこともあり、玉島教会を紹介されました。

玉島教会に通うようになって、病気は良くなるかと思っただけでしたが、むしろ逆で、「うつ病」から「躁うつ病」そして、「統合失調症」、いまでは、「発達障害」の疑いま

であり、見た目では分かりませんが、精神障害者の認定を受けています。そして、震災前には、胆石・胆のう炎による、胆のう全摘出手術と言う、神様が御創りになられた臓器が一つ亡くなってしまいました。

また、私は、時に他人の意見を聞き入れず、自分中心になりがちで、悪い意味で頑固で融通が効かない面もあります。また、精神的な不安定さから物を壊すなど器物に当り散らす時がしばしばあります。

特に、玉島教会に通うようになって、精神科の病院とは名ばかりの保護室と言う、刑務所のような牢屋に何度となく強制的に入れられて辛く苦しい思いをしてきましたが、これも神様が与えて下さった私に対する、試練・懲らしめなのかも知れません。

人間は逆風や逆境を乗り越えてこそ、人格的な成長があるのではないかと思わされています。

聖書の箇所、例えば、ローマの信徒への手紙；5章：3・4節→→『・苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、・忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。』

そして、それは、例えば、『・現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足らないとわたしは思います。』ローマの信徒への手紙；8章：18節。

特に、私でも所詮、人間ですから完全ではありません、失敗や挫折、苦難や弱さが故に他人に迷惑をかけたり、過ちを犯したりと言う罪深い者です。

しかしながら、それを悔い改め、日々新たにされることを信じる事によって、雪の白さのように清められるならば、イエス様の十字架の贖いを信じるのは当然、正しいことであり、そこに将来への希望が湧き上がってくるのだと思います。

最後に、私には、イエス様を信じるが故に、内にも外にも見える形でも、“イエスの焼き印” を身に受けています。今でも血を流し、イエス様の苦しみや困難を理解できる良き理解者であり友人であり続けたいとも思っています。

そして、色々な困難を受けて来ましたし、これからもどんな険しい道が待ち受けているのかは、分かりませんが、イエス様を信じるに当たって、新たなる目標も生まれ、今それに向かって挑戦中です。これほど、大きな希望と喜びと感謝に満ちた気持ちを覚えるのは、今年になってからのような気がします。いつも聖餐式に参加出来なくて忍耐の第三日曜日も経験してきましたし、初めて、教会に招かれて、今年で、丁度10年目。また、私の干支である辰年に当たり、節目の年でもあります。この計画的必然性を受け入れて、私たちの救い主イエス・キリスト様を我が主、我が友であるここに告白します。

『わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。』(ヨハネによる福音書；14章：19節)。これは、真実であり現実なのだと感じる今日この頃でした。 2012年05月17日(木曜日)朝・広島市内にて、洗礼の証し。